

奥州街道宿場町

宿場町から
新たな未来を

富谷

しんまち

VOL.2

かわら版

思いを寄せ合えば、新しい未来が見えてくる!

「寄合」ってご存知ですか?

室町時代からあるという、自治的な会合のことなんです。

今、このしんまちでもまちづくりを考える、まさに「寄合」が行われていますよ!



寄合感覚でみんなでわいわい。
お題はしんまちの「らしさ」だ!

しんまちの「らしさ」とは何だと思
いますか?

ひと言で言うのは難しいですよ。

でもこれからまちのビジョンを考え
る上で「らしさ」を見つけるのは大
切。まずは集まってみんなで話し合
おう!と9月3日に寄合的なワーク
ショップを開催しました。

まちの「らしさ」について聞かれ
たとき、まずは何を思い浮かべるで
しょうか?

出てきた意見は多彩。「内ヶ崎醬
油屋 内ヶ崎酒造店などの老舗」「掛
けづくりから廊下を介して眺める七
ツ森の風景」「熊野神社に鐘がある」
「商いの中心地だったこと」「初売り
は有名」「茶畑を背負っていること」
などなど。建物だけでなく、風景や風
土も「しんまちらしさ」なんです。

そして「しんまちらしさ」とは、とこ
とんまちの歴史を知っていないと出
てこない」といった声。富谷宿が開宿
してから400年間、こういった出
来事があったのか。住まいや食、文化
なども調べることで答えが見えるの
ではないかということでした。

「二人ひとりの心の中にらしさがある」といった声も。目に見えるものだけでなく、目に見えないものから「らしさ」を見出せるのではないかと、いう貴重な意見も出てきました。

人の心に、風景・風土に自然!

そうか、それが「らしさ」なんだね!

いいですね! しんまちの「らしさ」。
しんまちは人の心、歴史、文化、自然、
地形、風景、風土などさまざまな「ゆ
たかさ」で満ちているのだと思います。
まちの「らしさ」について話し合っ
た後は、幅広く「街にどんな機能が
あったらいいか」を考えてみることに
使われていない古い建物を作家に活
用してもらったらどうか、もしくは
シェア工房を作るのはどうかという
アイデアも興味深かったです。富谷
茶やスイーツ、日本酒などしんまち
の食に着目して「しんまちフルコー
ス」を提供できる」といった話も、皆さ
んの中からは「しんまちは歴史があ
り文化レベルが高い」といった声が
聞かれました。

一人ひとりの思い描く姿を実現す

るためにも、まちの内外の人に「ゆた
かさ」を理解、享受してもらうことは
大切なことではないでしょうか?

多くの意見を出し合い、ホワイトボードを使ってアイデアを分類、整理。さらに考えを深めていきます。



どうやって

地域の歴史資源を
活かしていくか!?

伝統の朝市再生でも有名な
「秋田県五城目」を視察

8月28日、地域資源を活
かしている先進地視察に
行ってきました。秋田
県の五城目地区。

あいにくの雨でしたが、
事務局協議会メンバーの
皆さん合わせて22名での
長旅です。

地域活性化支援セン

ター「BABAMEBAS
E」は、まちづくりや起業
のベース基地。「はじめの
ことのハードルを下げるた
めに、様々な学びの場や協
力しあうコミュニティづく
りに力を入れていること
が参考になりました。
福祿寿酒造では酒造見
学の後に、蔵元が開設し
ているカフェHIKOBEBE

に。螺旋階段がある開放的

な雰囲気。日本酒だけでは
なく、五城目を飲んでもら
うという発想で、コミュニ
ティに開かれた生産現場
という感じですね。

最後に立ち寄ったシェ
アビレッジ町村の武田昌
大さんの話も刺激的。全国
の皆さんとふるさとをシェ
アするという発想で、持続
可能な「村づくり」をして
いるな、という印象でした。
話を伺った方々に共通
するのが、楽しんで仕事を
しているというところ。これ大事だと思います。



何度もワークショップを重ね、たくさんの
思いを寄せ合わせることでビジョンをブ
ラッシュアップ。

しんまちの「ゆたかさ」を内外で
そして、世代間で理解・共有。
そう、そこから交流が生まれる!



しんまちのさまざまな話題を発信!
富谷しんまちの情報発信Webサイト
<https://shinmachi-tomiya.com>



9月10日には、しんまちの「ゆ
たかさ」を内外の多くの人に共有
してもらおうにはどうすれば良いか、
また、未来に向けてまちがどのよ
うになっていけばいいかを話し合
いました。

例えば「しんまちの歴史を語り
つないでいけるような語り部がい
たらいい」という意見。林間学校な
どで若い人たちを教育すること
によって、広く伝わっていくので
はないかということも聞かれまし
た。「世代間交流できる駄菓子屋が
あったらいい」という話も印象深い
です。大正デモクラシーの偉人だ
る内ヶ崎作三郎など、時代をク
ロスさせてしんまちの歴史や文化
魅力を学べる交流サロンなどもで
きたら面白そうですね。

たくさんさんの声が寄せられました
が、しんまちの「ゆたかさ」を「理解・
共有」してもらおうための拠点づく
りや「迎え入れる」「育んでいく」た
めの環境づくりが必要なのではな
いでしょうか?内外でそして世代
間で理解・共有してもらおうことか
ら、新たな交流や行き交いがはじ
まる。そのことで「交流拠点」として
の「新しい宿場町」の可能性も大き
く広がっていくような気がします。

もっと深くまちを考えたい!
さあ、分科会に発展させましょう

来年2020年には、富谷宿開
宿400年を迎えます。新たなま
ちづくりに向けてさらに深くビ
ジョンを考えるため、分科会とし
て宿場町らしい拠点、おもてなし

さあ、どんな
展開があるのか?
乞うご期待!

